



企画提案型がん対策推進事業計画書

NPO 法人 茨城県がん地域医療を考える会
理事長 佐藤好威

平成30年度の企画提案型がん対策推進事業への申請内容が下記のように決定いたしました。今回で3年目になります。継続は厳しいですが、患者会活動の発展のためには取り組まねばならない責務があると考えております。概要を記載します。

事業名：パネルディスカッション「がん患者の尊厳とは」と「がんサロン世話人交流会・養成講座」

期 日：H30年9月22日(土) 10:00~17:00

会 場：茨城県立中央病院 研修棟会議室B

対 象：茨城県内全域

対象者：がん患者・家族・遺族、MSW、臨床心理士
保健師、看護師、医師、教師・教官

事業概要：＜目的＞

がん対策基本法改訂版と県がん条例明記の「がん患者が尊厳を保持し、安心して暮らせる社会の構築」の項を患者家族として深く理解するために、パネルディスカッションにおいて患者家族、各職種の医療者を交え討議し、「がん患者の尊厳」の政策的具体化を図りたい。

また、がんサロン世話人交流会・養成講座では、がんサロンが開催されてから、5年になり、サロンの有意性はますます大きくなってきている。当県でも、患者会・サロンの数も増え、活発な活動が続けられているようだ。

しかしながら、活動の持続性と発展的拡大のためには、世話役の数と質のさらなる向上が求められている。本年は、サロンの世話役が一堂に会し、これまでの経験をもとに、以下のような知識と行動を学び合いたいと思う。①がん医療におけるがんサロンの位置：緩和ケアとがんサロン ②がん患者サロンの目的：自分の価値観・人生観・死生観の再認識と構築 ③がんサロンの運営：傾聴の徹底、政治・宗教・サプリメント関連者への対応 ④がん患者の社会貢献：がん啓発とがん教育で何を伝えるか ⑤企画立案実行の継続：特に、サロン参加者の拡大策 ⑥サロンを開催し続けること：めげない心の育成
以上の目的の達成のために補助金を使いたい。

＜事業準備のタイムテーブル＞

年・月	内容
30年4月	企画提案型事業取組決定
5月	演者の選定と確保、日程決定、会場確保、
6月	チラシ、ポスター案作成
7月	各演者への招聘状、チラシ、ポスター配布
8月	チラシ配布、参加呼びかけ
9月22日	開催日
10月	報告集作成のため、編集会議とテープ起こし発注
11月	編集作業開始、印刷依頼
12月	印刷終了
1月	配送開始 県への実績報告

当日のタイムテーブル

時間	項目	小項目
10:00	パネルディスカッション	がん患者の尊厳とは(各10分発表)、討議60分
12:00	昼食	
13:00	開会	開会宣言、挨拶
13:30	基調発言	がんサロン運営の諸問題
14:00	提言	緩和ケアとがんサロン
14:15	世話役体験発表	参加サロン代表 各7分
15:00	討論	テーマ別グループ討論
16:00	まとめ	各自学びの振り返りを記述
16:30	閉会	

地域がんサロン「虹」発足



7月に、地域がんサロン「虹」が発足いたします。茨城保健生活協同組合の協力を得て、水戸市平須の水戸共立診療所で開設されます。これまでは、がん診療拠点病院や指定病院でサロンを開いてまいりましたが、病院まで来られない患者さんや家族遺族の方々のために、地域で開くことになりました。オープニ

ングセレモニーは下記の通りです。

地域がん患者サロン『虹』



がんは日本人の死因の原因の第1位で、生涯のうち2人に1人が、がんにかかると推定されています。

「がん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築をめざして」

(がん対策基本法条文より) 地域にがん患者サロンを発足しました。

お気軽にご参加下さい。 参加費 お茶代

日時 2018年7月13日(金)

時間 14時~16時

会場 サロンカフェひらす(水戸共立診療所横)

水戸市平須町1819

内容

☆基調報告(開催にあたるまでの経過)

☆記念講演 地域のがん患者サロンとは

~医師の視点から~

講師 水戸医療センター 副院長

血液内科 米野拓哉 先生

☆県内のがんサロンの現状

☆コンサート(グループ名 ブチハモ)

主催 地域がんサロン患者「虹」の準備会

協賛 茨城保健生活協同組合

サロン問い合わせ先:09024052883 (後藤)

公益財団法人日本対がん協会 垣添会長との情報交換会に参加しました

横倉 武文

昨年の6月に日本対がん協会が立ち上げた「がんサバイバー・クラブ」の垣添忠生先生(日本対がん協会会長)は、2月5日(月)に九州がんセンター(福岡市)を出発し、7月23日(月)の北海道がんセンター(札幌市)到着まで、全国がんセンター協議会加盟の32施設を訪問し、概ね3000kmを徒歩で回りながら、全国のサバイバーにエールを送るとともに、広く国民にサバイバー支援を呼びかける活動を行っています。

去る5月21日に茨城県立中央病院を訪問され、院長 吉川 裕之 先生との情報交換を行い、その際、患者会の一員として当会も参加しました。サバイバーの就労問題、がん治療の経済的な問題などに関して、がんに関わる一人一人が声を上げないと問題が改善されない点を強調されていました。がんの基礎研究から臨床の現場、がんセンターの管理者そして自らも大腸がんと腎がんのサバイバーであり、加えてご令室を肺がんでなくされた遺族でもある方が、77才を迎えても3000kmを歩いて回るなど、精力的に活動を続けておられることに敬服いたしました。しかし、今回のこの「がんサバイバー・クラブ」の活動があまり知られていないようですし、また患者会への参加要請も突然で、残念というかもったいなく感じました。

済生会がんサロンなどでしこ4周年セレモニーに参加して

佐藤好威

などでしこ例会4周年セレモニーが、5月17日開催された。開催時15~6名の参加者も後半のフラダンスの公演時には30数名に増えていた。看護師主導のサロンで、それらしく柔らかな雰囲気の間であった。

私の注目は、緩和ケア認定看護師疋田さんの「自分らしく生きるために」の口演だった。友部やまびこ、しろやまざくら、ハマナスと終えて、残るなどでしこがどのような内容で、がん患者の尊厳を語るか楽しみだった。約30分の話は、看護師らしく平易な言葉でゆったりと語り掛けていた。

「尊厳」というテーマを、脇に置き「緩和ケアの意味と意義」に主眼点が置かれていた。「緩和ケアとは」のWHOの定義は、何度もこれまで聴いてきたが、以前より



ち具体的になったかなと思われたのが、その解釈で、病気を抱えた患者や家族が「自分らしく生活していくこと、自分らしく生きていくこと」を支援していくことへ深化したことだった。従来の解釈は「心身のつらさを和らげ、豊かな人生を送れるよう支援する」という抽象的な文言だったが、「自分らしく」と具体的になった。さらに「自分らしく」を見出すために緩和ケアチームは、がんに関しても「どう過ごしたいか」、「どう生きたいか」を見つける支援をすることらしい。支援は患者家族のQOL(個人が、これでいいと思える“生命の質”、人間らしい尊厳に満ちた生)の維持向上が前提だと話した。すなわち、健康関連の4つの側面(機能面、身体面、社会面、心理面)と霊的側面(スピリチュアルな面)の維持向上だ。緩和ケアチームは、そのために、①患者の病気への理解を支援し、治療の場所、方法をサポートする。②痛みの緩和、痛み以外の症状の除去、③日常生活への復旧の支援(食事、排泄、睡眠、自然な姿勢や体位、清潔さ、生活しやすい環境)、④心のケア、⑤家族へのケア、⑥在宅緩和ケアなどの総合的支援をしていくと述べた。

これまで、聴いたことのない緩和ケアの目的と具体的支援内容であった。おぼろげながら、がん患者の「尊厳保持」への接近を感じた。しかし、患者が保持すべき尊厳の環境整備は見えるが、「患者の尊厳」の明確な枠組みは、結局、まだつかめない。「患者の尊厳」は「自分らしさ」と同意なのだろうか?

ここから、尊厳への探索が始まるのであろう。問題は、参加者のうち何人が講演を理解し受け止めたかだ。

9月22日(土) 県立中央病院研修棟会議室にてパネルディスカッションと世話人交流会開催

「なかよしこみち」の思い出

後藤睦子

「なかよしこみち」

- 1) なかよしこみちは、嬉しいな
いつもとなりのみよちゃんと、
ランドセルしょって元気よく、
おうたを歌ってかよう道
- 2) なかよしこみちは、嬉しいな
いつもとなりのみよちゃんが、
ニコニコあそびにかけてくる
なんなんなのはな、におう道
- 3) なかよしこみちの小川には
とんとん板橋かけてある
仲良く並んで、腰かけて
お話するのよ、楽しいな
- 4) なかよしこみちの日暮れには、
母さんおうちでおよびです
さよならさよなら、また明日
おててをふりふりさようなら

1939年昭和14年発表

3月30日、この日は孫が制服を着て小学校の門をくぐる最後の日でした。家に帰って来て「一言、やっぱ、学校は楽しいな」と言う。ランドセルも3月19日で最後。3月20日は卒業式。4月から中学生です。重たいカバンを背負う。

昔は、中学生のカバンは白いショルダーカバンだったかな？今は男子も女子も同じリュック型のカバンとサブバックを持って歩く。

孫が帰って来て、私はいつの間にか「なかよしこみち」を口ずさんでいた。1番だけしか覚えていないけど。なぜか懐かしく、スマホで歌詞を検索しました。

この歌は、昭和14年の童謡だった。

私の子供のころは、みんな、夕方まで外で遊んでいた。私も元気な時は、夕方までいろんな遊びをした。夕方、どこの家にもエントツがあって、夕ご飯の支度やお風呂の準備をしているのがわかった。お母さんが「ご飯だよー、もう帰っておいで」と呼ばれたものだ。

今はというと、スマホで遠隔遊びというのか、家の中にまるで友達がいるかのように相手と話し一人で大声で笑うのを見ていると少し異様に思うのは私だけなのかな？

「小児がんを深く知って」 横浜の小学生、実体験を絵本へ

塩谷妙子

小児がんの理解を深めてもらおうと、病気を経験した小学生が発案した絵本「しろさんのレモネード

やさん」が完成した。

横浜市立平沼小学校5年生栄島四郎さん(10)の実体験を基に、周囲の大人や友人らが制作した絵本だ。「小児がんのことを多くの人に知ってもらいたい」と思いを込めた一冊は、7月15日に発売される。絵本では四郎さんが実際に行なっている米国発祥のレモネードを売って小児がん支援を募る取り組み「レモネードスタンド」の様子を描いている。その冒頭に四郎さんからのメッセージも収録されている。

四郎さんが脳腫瘍とわかったのは3歳の時。手術や抗がん剤の治療を受け、現在も通院を続けている。四郎さんが通う作文教室を主宰する松崎雅美さんと母の圭子さんが絵本作成について話しあい、昨年6月に制作委員会が発足。イラストレータの矢島由布子が挿絵を手掛けることとなった。資金の一部をクラウドファンディングで募ると190万円集まり、今年1月から作業を開始し、3千部を発行。委員会が2千部を買い取って一部は病院などに寄付し、残る千部は書店で販売する。松崎さんは「病気とは関係のない多くの方に読んでいただき、小児がんの関係が孤独ではないことが伝わればいい」と語る。

「レモネード遊園地」のアイデアを出した川口蒼さん(10)は同市立西柴小学校5年生。「病気だと遊園地に行くことができないので、誰でも遊べるレモネード遊園地を考えたい」という。小児がんの子供たちは「かわいそうだ」と思うだけでなく、小児がんの患児を支え・協力してほしいと話す。

絵本は1512円。売り上げの一部は、病気の子供たちに役立てるため寄付される。問い合わせは、吉備人(きびと)出版電話086(235)3456

水戸医療センターの環境整備ボランティア

石川順子

六月どんよりとした空の下、初めて医療センター



の除草作業に参加しました。集合時間ギリギリに着き黙々と作業する人達の前を通り担当の場所に案内されました。1本の

木を丸く囲んだ直径3メートル位「これ位なら楽勝！」と思いましたが5分で苦戦しました。名も無い草の底力。コンクリートやレンガの隙間にしっかりと根を張っていて、あっという間に汗だくになってしまいました。廻りを見ると集めた草を軽トラで回収する人、除草をする人などボランティアや医療センターの方や茨城町の職員の人々がたくさん参加していました。「おらが町のおらが病院」なる

ほどなと思いました。通院入院患者さんたちが、すっきりとした庭や通路を見たり歩いたりして、晴れ晴れした気持ちになって欲しいと思いました。

がん患者サロンの近況と予定

しろやまざくら

下表は平成30年7月以降の勉強会の予定表です。

月 日	勉強会テーマ	演 者
7月17日	開設5周年記念セレモニー	院長挨拶、名誉院長記念講演
8月21日	前立腺がんと前立腺肥大	未定
9月16日	がんと食事	管理栄養士比嘉並誠
10月16日	結腸癌とストーマ	排泄ケア認定看護師村澤美幸

**がん患者サロン
しろやまざくら 5周年セレモニー**

日時: 7月17日(火) 13:00~16:30
場所: 水戸医療センター 2F 研修センター
会費: 無料

プログラム

第一部 研修センター
13:00: 近況報告会

第二部 5周年セレモニー 進行 秋山室長
14:00 挨拶 山口高史院長
挨拶 茨城県がん対策推進室 土信田室長
「5年間を振り返って」 佐藤世話人代表

14:30 記念講演 植木名誉院長
「がん治療の過去・現在・未来」

第三部 ミニコンサート 進行 石川世話役
15:10 水戸医療センター医療者グループ(25分)
ハンドベル演奏 青山看護師長 他(15分)
フラダンス(10分)
独唱 毛塚さんと福田さん(各5分)
音楽ボランティア「ローラス」演奏と合唱(20分)

展示物
絵画、写真、しろやまざくらの歩み、サロン便りNO1~最新号

連絡問合せ先
しろやまざくら事務局 TEL 029-306-8406

ハマナス

下表は平成30年7月以降の勉強会の予定表です。

月 日	勉強会テーマ	演 者
7月26日	ヒトの尊厳を支えるMSWの仕事とは	医療社会事業専門員 中山 裕暁
8月23日	お薬の話	薬剤師
9月27日	開設3周年セレモニー	
10月25日	がん患者とリハビリ	作業療法士

なでしこ

下表は平成30年7月以降の勉強会の予定表です。

月 日	勉強会テーマ	演 者
7月5日	絵本の読み聞かせ	臨床心理士
8月2日	口腔ケア	歯科衛生士

9月6日	医療費改訂	MSW
10月18日	乳がん	乳がん認定看護師

友部やまびこ

下表は平成30年7月以降の勉強会の予定表です。

月 日	テーマ	講師
7月2日	大腸がんのお話し	消化器内科部長 天貝賢二
8月6日	せん妄について	精神科部長佐藤晋爾
9月3日	アピアランスケアについて	乳がん認定看護師園原一恵
10月1日	がんと栄養	未定

サロン情報



サロン例会開催日

サロン名	開催日・会場
友部やまびこ	毎月第1月曜日 13:00~ 県立中央病院 PCU 病棟 5F
なでしこ	毎月第1木曜日 14:00~ 済生会病院丹野ホール
しろやまざくら	毎月第3火曜日 10:00~ 水戸医療センター患者教室
はまなす	毎月第4木曜日 11:00~
虹	水戸共立診療所 カフェ 毎月第2金曜日 14:00~

NPO法人茨城県がん地域医療を考える会事業

日 時	事 項
7月12日	友部中学校がん授業
7月13日	地域がんサロン「虹」開所
7月28日	考える会例会 3の丸会館
9月22日	パネルディスカッションと世話人研修会

編集後記:

ようやく、地域サロンが開設されます。その名も「虹」。虹の架け橋です。何と何を、誰と誰を結ぶのか。橋にはたもとがあります。しかし虹にはたもとがありません。たもとがなければ橋を渡れませんし、向こう岸にたどり着けません。にもかかわらず、虹の架け橋と呼ばれています。虹のたもとの存否については、水滴と光のみが答えを持っています。その自然の摂理が、いつかたもとを築いてくれるでしょう。虹のかけ橋、そのたもとを探し、いつの日か虹の橋が渡れますように……。文責 佐藤

発行: NPO法人茨城県がん地域医療を考える会
ホームページ: <http://ibaraki-cancer.com/>
TEL/FAX 029-306-8406、
mail:y-sato@blue.ocn.ne.jp